

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2013年6月6日

No.25

夏季手当 第4回交渉報告

**組合員に経営責任を転嫁することは論外！
会社は覚悟と誠意をもって組合員に応えよ！**

中央本部は本日10時から、夏季手当第4回交渉を行い、会社は現時点における夏季手当に対する考え方を明らかにしました。

【会社の考え方】

- 貨物会社の平成24年度決算は自然災害が多発する中、社員の努力によって約4億円の経常黒字を計上することが出来た。しかし鉄道事業部門の赤字は増えており、引き続き厳しい状況にある。
- 国内総物流量は減少傾向にあり、収入についても伸び悩みの傾向が見られる。5月の収入動向は対計画99.1%（△0.8億円：速報ベース）である。引き続き収入確保に全力をあげる。
- 関連事業部門が鉄道事業部門の赤字を補てんするこれまで通りのやり方は限界である。鉄道事業部門の赤字幅の縮小を内外から求められているが、現状は営業収入が伸び悩みコスト削減も限界である。したがって経費を削減せざるを得ない。
- 期末手当は生活給の部分もあるが、業績給の側面もある。今年度は、鉄道事業部門の収支改善が会社の大命題である。夏季手当については厳しい判断をせざるを得ない。したがって現段階では平成13・14年度の実績（1.5ヶ月）を切り込まざるを得ない考えである。

【組合の主張】

- 4、5月の収入未達に対して、経営陣は何を努力したのか具体策が見えない。ダイヤ改正後のフォローなど、問題解決に向けたスピード感が欠如している。経営陣の責任を果たしていない。
- 昨年度の黒字決算は、多発する輸送障害の中、組合員の努力によって実現したものである。期末手当は業績給の要素を重視するのであれば、一昨年より昨年度の黒字決算は拡大しており、支払い能力があることは明らかである。昨年以上に組合員への還元が行われるのは当然である。
- 平成25年度事業計画の収入計画が未達の中、経営陣は一切身を切ることなく専務を3名体制とするなど、臍を決して収入確保・拡大に向けて取り組む姿勢が全く見られない。にも関わらず、鉄道事業の収支改善のために組合員にのみ犠牲を強いることは論外である。現段階の会社の考え方は到底受け入れることは出来ない！再考を求める。あわせて賃金削減計画には反対である！

組合員の皆さん！会社は組合員に一方的に犠牲を強いる姿勢を一切変えていません。収入拡大を軽視し、経費削減に傾斜する経営姿勢を改めさせるために、職場からたたかいを創りだそうではありませんか。中央本部はその最先頭で闘うことを決意し、第4回交渉報告とします。

次回第5回交渉（回答指定日）は 6月14日（金曜日）です。

以上